

第54回造本装幀コンクール 受賞者インタビュー

審査員奨励賞：『NEUTRAL COLORS 1』

出版社

NEUTRAL COLORS 加藤直徳 氏



©佐藤祐介

●御社の活動について教えてください。

NEUTRAL COLORSは、インディペンデントな出版社です。リソグラフ、シルクスクリーンなど、印刷工程に手作業を盛り込み、独自のスタイルで本をつくっています。企画、編集、製作、印刷、製本、営業までを一貫して行います。まだ世に出ていない才能を揺り起こして、作家との密なコミュニケーションを通じて、ワン&オンリーな出版物を製作しています。

●今回の作品のような造本にされたのは、どのような経緯があったのでしょうか。

リソグラフという印刷機と出会い、独特な風合いの色味をオフセットに合わせて綴じたらどうなるだろうと思ったのがきっかけ。印刷所でオフセットを刷り、その刷り本を



加藤直徳氏

預かったリソグラフ印刷を上から刷ってみるなど、かつてない方法で印刷しました。また装幀は、週刊漫画誌のような太い中綴じが、雑なもの（リソグラフ）を綴じるという雑誌の概念に合うと思い、太い中綴じができる製本所を探しました。

●応募したきっかけや、受賞の知らせの感想、周囲の反応など、いかがでしたでしょうか。

審査員に秋山さんがいたことが大きいです。彼の仕事に以前から憧れがあり、リソグラフを使った特殊な雑誌を見てもらいたいと思いました。審査員奨励賞を狙っていたのでとてもうれしかったです。周囲の反応は、「こんな賞があったんだ」というものが圧倒的に多く、もっとこの賞が知られたらいいのと思いました。

●作品制作において、こだわった点、苦勞した点、制作についてのエピソードがあれば教えてください。

まず5,000部の雑誌をリソグラフで刷るという行為自体が未知数で、想像を絶する大変さでした。まず紙を2トントラックで運ぶことからはじまりました。そして刷ったものを印刷所に戻してオフセットの刷り本と合体させる。ある意味で印刷所もかつてない挑戦だったと思います。



制作風景1

こだわった点は、紙を数種類使ったこと。リソグラフだけ、オフセットの上からリソグラフ、オフセットのみ、の3パターンの印刷方法です。

●一般の方は「造本」という言葉になじみがないかもしれませんが、「造本」の観点から、本を視る」ポイントを教えてください。

持ったときの感覚の良さを味わって欲しい。デザインだけでなく、表紙の紙、箔押しの色、中面の紙ざわり、ページのめくり具合、それぞれ造本家が文章や写真に合わせて試行錯誤した結晶なので、そのへんをもっと感じて価値を持ってほしいと思います。

(了)



制作風景2